

TIDAL による MQA 再生試聴報告(2019.3.24)

アサヒステレオセンターでは、TIDAL による MQA 音源のストリーミング再生をテスト中との情報を得ましたので、デモをお願いして試聴させていただきました。

<試聴システム>

スピーカーは、モニターオーディオの小型スピーカーで、アンプも TEAC の小型アンプです。



LAN に接続している、TIDAL をインストールした PC から USB ケーブルで、3つの USB-DAC に入力します。

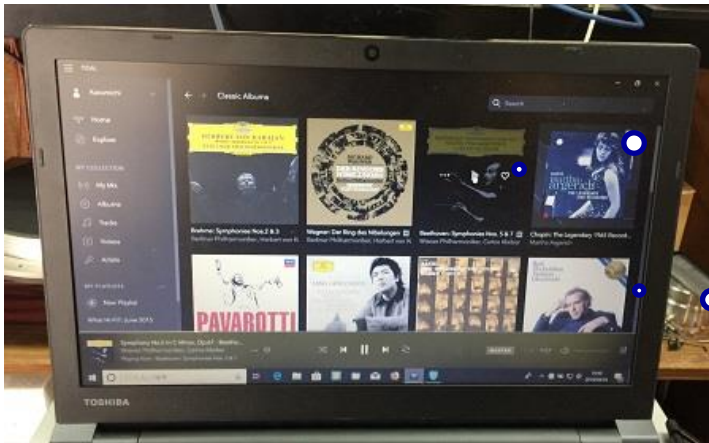
nano iDSD (レンダーラー)

micro iDSD (レンダーラー)

LIBERTY DAC (フルデコード対応 DAC)

<試聴の経過>

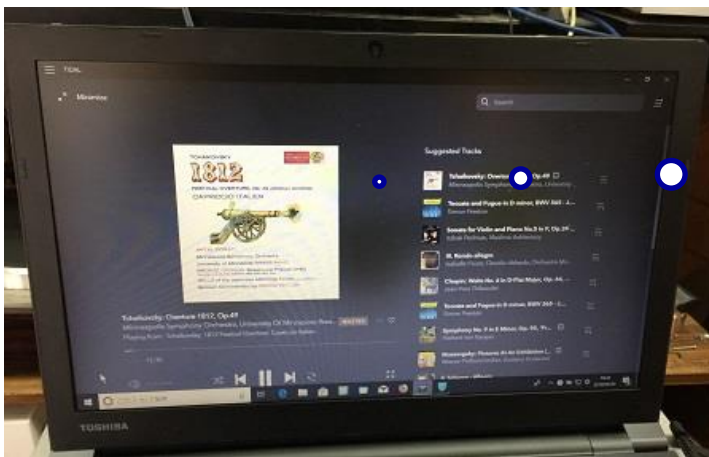
最初に、nano iDSD を使用し、MASTER の設定をして、TIDAL の音源検索から MASTER の表示のある音源を選んで再生しますと、nano iDSD の iFi のロゴマークがマゼンタになり、MQA のデコードをしていることが分ります。MQA の表示のない音源を選んで再生しますと、nano iDSD の iFi のロゴマークがグリーンになります。



カロルス・
クライバー

グレン・
グールド

音源選択画面



アンタール・
ドラージェィ

iFi のロゴマーク

音源再生画面



nano iDSD による MQA 音源再生

nano iDSD による非 MQA 音源再生

この後、micro iDSD と Liberty DAC でも MQA 音源の再生を行いました。LIBERTY DAC では設定を替え、再生時には MQA の表示ランプが点灯します。



MQA 表示ランプ

LIBERTY DAC による MQA 音源再生

音源としては、カロルス・クライバー指揮のベートーベンの5番やアンタル・ドラーティ指揮のチャイコフスキーの1812年を選びました。簡単なシステムでしたが、MQA音源再生と非MQA音源再生の違いは分かり、また、nano iDSDによる同じMQA音源の再生で、MQA対応と非対応の設定を切り替えると、音が変わることも確認できました。

TIDALのアカウント取得とTIDAL MASTERの設定、ならびにTIDALの音源検索には、かなりの習熟が必要なことも分かりました。

<まとめ>

現在保有しているDACが使えるですし、TIDALにはMQAも含めたハイレゾの豊富な音源があり、挑戦してみる価値のあるサービスのようなので、アカウントの取り方や、TIDAL MASTERの使い方などを習得していくことを考えています。また、将来的にはPCを経由しないで、直接LANから再生できるDACの導入も検討したいと思っております。

以上